

日蓮大聖人御書全集

にちがつ こと

日月の事

新版
978
ゝ
980

にちがつ こと

日月の事

せいや きさき

誓耶 后

まり してんによ

摩利史天女

だいにってん

大日天

らくしや の

輅車に乗る

びせいや きさき

毘誓耶 后

くよう

九曜

しちよう

七曜

にじゅうはつしゆく

二十八宿

だいがってん

大月天

が の

鵝に乗る

じゅうにきゆう

十二宮

こんこうみようきよう

い ひ てんし

がってん

きようてん き

金光明経に云わく「日の天子および月天、この經典を聞

しょうけじゅうじつ

き、精氣充実す」

さいしょうおうきよう

い

ひい

せんこう

はな

むくえんしょうじよう

最勝王経に云わく「日出でて千光を放ち、無垢焰清浄

きようおう

ちから

よ

るき

してん

めぐ

なり。この経王の力に由って、流暉、四天を遶る」

にんのうきよう

い

にちがつど

うしな

とう

仁王経に云わく「日月度を失う」等

だいじつきよう

い

にちがつ

みよう

げん

しほうみなこうかん

大集経に云わく「日月も明を現ぜず、四方皆亢旱す。

ふぜんごう

あくおう

あくびく

わ

しょうほう

きえ

かくのごとき不善業の悪王・悪比丘、我が正法を毀壞す」

にんのうきよう

い

ほう

りつ

びく

仁王経に云わく「法にあらず律にあらずして比丘を

けばく

ごくしゅう

ほう

繫縛すること、獄囚の法のごとくす」

ほけきよう

い

しきりき

ちえ

みなげんしょう

法華経に云わく「色力および智慧、これらは皆減少す」

けごんきよう い

華嚴經に云わく

だいじつきよう い

大集經に云わく

さんりき いっさいしゅじようりき ほうりき じしんくどくりき

三力 一切衆生力・法力・自身功德力

かいこう しょうじよう

戒光 清淨なり

にっこう じようこう じよう

日光 定光 定なり

えこう ねん

慧光 湊なり

だんじき

段食

ほうじき

法食

きじき

喜食

ぜんえつじき

禅悦食

にんてん

人天

さんがく

三学

しょうじょう

さんがく

小乗

三学

だいじょう

さんがく

大乘

三学

ごんだいじょう

さんがく

権大乘

三学

じつだいじょう

さんがく

実大乘

三学

じゅんえん

さんがく

純円

三学

ほっしんこう

はんにやこう

げだつこう

法身光・般若光・解脱光

てん しよじ

この天は初地

じっしん

じゅうじゅう

じゅうぎょう

じゅうえこう

じゅうじ

とう

みょう

十信・十住・十行・十回向・十地・等・妙

あるいは義ぎは十回向じゅうえこうなり

しよじ

初地

さんわく だん

三惑を断ず

しよじゅう

さんわく だん

初住

三惑を断ず

ほくしん

北辰

ぼん

たいしゃく

にちがつ

してんとう

梵

帝釈

・日月

四天等

しゅしやう

衆星

にくげん

てんげん

えげん

ほうげん

ぶつげん

肉眼・天眼・慧眼・法眼・仏眼

いっさい

してんげ

しゅじやう

げんもく

一切の四天下の衆生の眼目

えじき

じゅみやう

衣食

寿命

有^う〈地^じ〉にあら^はず、地^じを離^{はな}るるが故^{ゆえ}に。空^{くう}にあら^はず、地^じ

有^うを照^てらすが故^{ゆえ}に。辺^{へん}にあら^はず、中^{ちゆう}に処^{しよ}するが故^{ゆえ}に。

しかも空^{くう}、空^{くう}に処^{しよ}するが故^{ゆえ}に。しかも有^う、有^うを養^{やしな}うが故^{ゆえ}

に。来^{きた}らず、北^{きた}に至^{いた}るが故^{ゆえ}に。しかも来^{きた}る、南^{みなみ}より来^{きた}

が故^{ゆえ}に。一^{いち}ならず、四^し州^{しゆう}を照^てらすが故^{ゆえ}に。異^{こと}ならず、一^{いち}日^{にち}

なるが故^{ゆえ}に。断^{だん}ならず、常^{じよう}なるが故^{ゆえ}に。常^{じよう}ならず、一^{いつ}処^{しよ}

に住^{じゆう}せざるが故^{ゆえ}に。

記^きの三^{さん}に云^いわく「部^ぶは方^{ほう}等^{どう}といえども、義^ぎは円^{えん}極^{ごく}なる

が故^{ゆえ}に。故^{ゆえ}に、今^{いま}これ^ひを引^ひく」